
教育総合センター

だより

NO. 135

平成 27. 3. 1

そったくどうじ 「啐啄同時」

尼崎市教育委員会
教育長 徳田耕造



「啐啄同時」は、今からもう30年も前に、ある研修会で聞いた言葉です。あまりに印象的だったので、今でも覚えています。「啐」(そつ)は、ひな鳥が卵の内側から殻を突ついて、音をたてること、「啄」(たく)は親鳥が外から殻を啄(つい)ばむことを言います。そして「啐啄同時」とは、「啐」と「啄」が同時にあってはじめて、雛が生まれるという意味であり、これは雛の誕生だけでなく、師弟や親子の関係においても学ぶべき点が多い言葉であると教えてもらいました。

ところで、私が新任教師の頃、先輩の先生から、教え過ぎることを戒められたことがあります。一人でも多くの生徒に理解して欲しいと考えていた私には、具体的にどうすればいいのかわからず、これでもかこれでもかと必死に教え続けていました。

教師になって10年くらいたった時です。教えるテクニックはそれなりに身につけてきたのですが、授業中の生徒の表情は硬く、笑顔やゆとりがない生徒がいることに気づきました。そこには、教師として「教えてやっている」という傲慢な意識があり、「一緒に学ぶ」という謙虚さがなかったように思います。

そんな時に出会ったのが、「啐啄同時」であります。一方的に教え込むだけでなく、生徒

の置かれた状況や背景を踏まえて、学ぶ人(啐)と教える人(啄)との間合いが大切だと教わったように思います。

それ以来、授業中に生徒自らが考える時間をとるとともに、朝や昼食時、掃除の時間など生徒と触れ合う時間を多くし、生徒の言動を観察し、話に耳を傾けるようにしました。すると、どうでしょう。これまであまり話さなかった生徒からも、悩みや友だち関係の話だけでなく、授業のアイデアも教えてくれるようになりました。少しずつですが、授業や学級において生徒が生き活きとし、発言や反応も活発化していったように思います。

すなわち、学んでいる人のことを考えずに、教える人が一方的に指導することは、意識はしていないものの、生徒の才能や個性を押しつぶしていたのかもしれない。

振り返ってみれば、私たちが学ぶ人であったとき、教える人を尊敬し、信頼できた体験を持っているからこそ、教師という道を歩んだのではないのでしょうか。

若い時の研修や先輩からの一言は、その後の授業だけでなく、人生そのものを変える場合があります。教える人は、常に謙虚に学び続ける人でありたいものです。

☆☆☆ 1年目教員研修より ☆☆☆

『113』この数字は、平成26年度採用の1年目教職員の人数です。その内訳は、幼稚園教員が8名、小学校教職員（以下、教職員には事務職も含む）が63名、中学校教職員が34名、特別支援学校教員が2名、市立の高等学校教員が6名です。

さて、1年目教員が受講する研修のねらいには、「さまざまな教育的課題についての見識を深め、教員としての自覚を高め合い、資質向上を図る。」ということが網羅されています。

具体的に1年目教員が受講しなければならない研修は、授業研究を中心に、道徳・人権教育、情報教育、防災・安全教育、学級経営および接遇に関する研修など、これらは教員として必要な基礎を身につけることを目指しています。

今年度実施した研修の中から2つの研修とそ

【必修研修第10回 11月18日実施】

兵庫県立教育研修所から4名の指導主事を講師に迎え、「道徳の時間」の充実に向けた研修を行いました。講話と道徳副読本「心きらめく」

「心かがやく」を用いて演習を交え、次の3つの内容で進めていただきました。

- ①道徳教育の指導の基本に関する【講話】
- ②道徳の時間の授業プランの【作成】
- ③模擬【授業】と相互評価

学校における道徳教育として、大切にしたいことや今後の「道徳授業」への取り組みの方向性等、指導力向上につながる内容の濃い研修でした。



【ステップアップ研修（選択）10月7日実施】

「先輩の授業から学ぶ」研修です。10年経験者教員の授業を参観し、実践を通して学び合う研修です。経験年数の違う教員研修の組み合わせにより、双方にとって学び多い価値ある研修となりました。このように経験年数や異校種、

内容等を意図的に組み合わせた研修は、平成26年度尼崎市1年目教員研修での新しい取り組みでもあります。



選択制のステップアップ研修は、希望による受講とあって、先生方は自身が必要とする内容や、可能とする日程を選んで受講しています。

これらの研修は、これからの実践や学級経営の参考となり、実践力獲得に効果的な研修となったことが感想などから、うかがわれます。

【必修研修第10回受講者の感想】

- 道徳の授業は、いくらでも深められ、おもしろいと思いました。それと同時にテーマや目標をしっかり定めておく大切さも実感しました。
- 道徳授業は、決して簡単ではないけれど、やりがいのある授業であると思いました。
- 自分自身も模擬授業をし、他者の授業も見ることができ、全体で深め合うことができたので、とても勉強になりました。

【ステップアップ研修（選択）の感想】

- 計画的に粘り強く指導を重ねることで、子どもたちは大きな力を発揮するのだと、授業を見て感じました。
- ベテランの先生の授業は刺激的でした。たくさんの方の授業を学べたので、他の研修にも参加したり、授業をみたりしたいと思いました。がんばり続ける勇気をいただきました。

おわりに

1年目教員研修は、教育課題を考えながら、内容の精選や研修形態の工夫・改善を重ねています。今年も、回を重ねるごとに研修を受ける先生方の研修の視点や課題意識に向上が見られ頼もしい姿が見受けられます。これからも皆様からのご要望をいただき、更なる研修の充実を目指して参ります。（研修担当係長 桑野光枝）

★★★インクルーシブ教育システムの構築と特別支援教育★★★

平成 26 年 1 月 20 日、日本は『障害者の権利に関する条約』を批准しました。この条約では、インクルーシブ教育システム構築についての理念が示されました。これに向けた今後の教育制度の在り方等について、中央教育審議会でも検討され、平成 24 年『共生社会に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)』においてまとめられました。

この報告では、「学校教育は、障害のある幼児児童生徒の自立と社会参加を目指した取組を含め、共生社会の形成に向けて、重要な役割を果たすことが求められている。その意味で、共生社会に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進についての基本的な考え方が、学校教育関係者をはじめとして国民全体に共有されることを目指すべきである」さらに、「インクルーシブ教育システムについては、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要である。小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった連続性のある多様な学びの場を用意しておくことが必要である」と述べられています。

特別支援教育は、インクルーシブ教育システム構築のために必要不可欠なものです。この報告では次の考え方に基づき、特別支援教育を発展させていくことが必要とされています。「障害のある子どもが、その能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加することができるよう、医療、保健、福祉、労働等との連携を強化し、障害のある子どもの教育の

充実を図る。障害のある子どもが地域社会の中で積極的に活動し、その一員として豊かに生きることができるよう、地域の同世代の子どもや人々の交流を通して、地域での生活基盤を形成し、障害のある子どもが積極的に社会に参加・貢献するための環境整備を図る。周囲の人々が、障害のある人や子どもと共に学び合い生きる中、公平性を確保しつつ社会の構成員としての基礎を作っていくことが重要であり、次代を担う子どもに対し、学校において、これを率先して進めていくことは、インクルーシブな社会の構築につながり、これは、社会の成熟度の指標の一つとなるものである」そして、「一人一人の子どもたちにとって授業内容が分かり、学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けているかどうか、これが最も本質的な視点であり、そのための環境整備が必要である」との考えを示しています。

本市においては、平成 23 年の『特別支援教育の方針』策定以来、「一人一人を大切にす」という重点目標のもと、特別支援教育の考え方が行き渡り、全校園に特別支援教育コーディネーターの配置、特別支援推進委員会の設置、個別の教育支援計画・指導計画、サポートファイル等、仕組やツールが整えられてきました。

これからは、各学校園における特別支援教育をより一層充実させ、子どもの持てる力を最大限に活かした自立と社会参加を目指す取組が重要になります。

(生徒指導・特別支援担当係長 岡本修一)

教育情報コーナーより

教育情報コーナーでは、先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備しています。ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。

新着図書から紹介いたします。貸出もできますので、ぜひご利用ください。

* 『教師のための「教える技術」』 向後千春／著 明治図書

「教え方」について学んだことがありますか？考えたことがありますか？

本書で「教える」ことの全体像を見ることができます。「教える」ことは、決して単純ではないことに気づかされます。教師力とは3つの能力が必須条件です。①プロとしての教え方を極める「教える技術」②教え方の設計に基づく「授業デザイン力」③アドラー心理学に基づく「クラス運営力」

日々の実践の中でつまづいたとき、この本の基本的な理論に立ち返ってみましょう、今起こっている現象の底に流れるものを見抜いていけるでしょう。

* 『続・教師の話し方・聴き方～学びの深まりのために』 石井順治／著 ぎょうせい

著者は、小学校の国語教育の実践に取り組むとともに、小中学校長として活躍されました。退職後は佐藤学氏と連携をとりながら、各地の学校の授業を観察研究。教師と子どもの「ことばの応答」に注目しつつ授業力の向上をめざします。子どもの学びの深まりのために、教師たちの話し方・聴き方を磨いていく方法を探ります。

* 『究極の説得力～人を育てる人の教科書』 平 光雄／著 さくら社

「教師にとって最も大切なものは説得力である。子どもに対するどんな強い思いも、説得力がなければ通じない。健やかな日々を見守るあたたかな気持ちも、指導を通して成長を願う大きな愛情も、子どもたちの心には届かないのである。」(はじめにより)

学級担任30年「説得力」を獲得するために精進してきた著者が、努力して身につけてきた方法をまとめています。相手の心に響くには、言葉だけではなく、その人の人間性や魅力が大きな力にかかります。

* 『友達ができにくい子どもたち』 石崎朝世／編著 PHP文庫

小児科医である著者の調査によれば、約5%の子どもたちが他の子との関係に問題を感じさせる子であったそうです。

友達ができにくい子どもを7つのタイプにわけ、それぞれのタイプの特徴を知り、社会性を育むために大人ができることをまとめています。

* 『子どもの本100問100答～司書・読書ボランティアにも役立つ』

大阪国際児童文学振興財団／編著 創元社

「海の魅力があふれた作品を紹介して」「昔話絵本の選び方って」「ラノベって何ですか?」「子どもの本の調べ方を教えて」……日ごろ、学校図書館で子どもたちからの楽しく、鋭い質問にビックリのみなさんに。

必要に応じてどの質問からでも読めるようになっていきます。また、通読すると子どもの本の世界を体系的に見ることができるようになっていきます。